平成30年６月期　第２四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成30年２月13日

上 場 会 社 名　KeePer技研株式会社　上場取引所　東・名
コ ー ド 番 号　6036　URL http://www.keepercoating.jp/corp/
代　表　者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）谷　好通
問合せ先責任者　（役職名）常務取締役経営企画本部長（氏名）滝谷　正史　(TEL)0562-45-5258
四半期報告書提出予定日　平成30年２月14日　配当支払開始予定日　ー
四半期決算補足説明資料作成の有無　：有
四半期決算説明会開催の有無　：有　（機関投資家・アナリスト向け ）

（百万円未満切捨て）

１．平成30年６月期第２四半期の業績（平成29年７月１日～平成29年12月31日）

（１）経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年６月期第２四半期	3,957	4.2	701	1.7	710	3.1	466	10.5
29年６月期第２四半期	3,797	6.2	689	6.0	688	5.7	422	0.9

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
30年６月期第２四半期	33.11	32.99
29年６月期第２四半期	29.43	29.28

(注) 当社は、平成29年７月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して１株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後１株当たり四半期純利益を算定しております。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年６月期第２四半期	5,956	4,253	71.4
29年６月期	5,789	3,918	67.7

(参考) 自己資本　30年６月期第２四半期　4,253百万円　29年６月期　3,918百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
29年６月期	ー	0.00	ー	19.00	19.00
30年６月期	ー	0.00			
30年６月期(予想)			ー	10.00	10.00

(注)１ 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

２ 当社は、平成29年７月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。平成29年６月期については、当該株式分割前の実際の配当の額を記載しております。

３．平成30年６月期の業績予想（平成29年７月１日～平成30年６月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,784	11.2	1,100	8.4	1,102	8.4	703	8.4	49.94

(注)１ 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年６月期２Ｑ	14,102,020株	29年６月期	14,086,020株
②　期末自己株式数	30年６月期２Ｑ	78株	29年６月期	78株
③　期中平均株式数（四半期累計）	30年６月期２Ｑ	14,089,228株	29年６月期２Ｑ	14,342,755株

（注）当社は、平成29年７月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※　四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ４「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期貸借対照表 …… 5
（２）四半期損益計算書 …… 7
（３）四半期キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報等） …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第２四半期累計期間（平成29年7月１日から平成29年12月31日）におけるわが国の経済は、米国を中心とする先進国経済が堅調に推移した結果、企業収益や雇用環境の改善が続き、個人消費も底堅い動きとなりました。しかしながら、国際情勢は引き続き不透明な状況にあり、原油価格も上昇傾向を示すなど、経営環境の先行きには注意を怠ることはできません。

当社ではこのような環境の中、ユーザーに提供されるキーパーコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerブランドのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えております。

しかし、第１四半期(平成29年7月１日から平成29年9月30日)が、７月、８月と記録的な悪天候に苦しめられたのに続き、第２四半期(平成29年10月１日から平成29年12月31日)も、初月である10月に、ひと月の間に３つもの台風が土日がらみで上陸するという前代未聞の悪天候に見舞われ不振にあえぎました。しかし11月に入ると正反対の好天が続き、一挙に来店客が増えて、日本国中のキーパープロショップとキーパーラボが活気付き、10月の不振分を一気に取り戻す活況でありました。

そして平成29年最後の月である12月は、キーパーラボ直営62店舗全体で売上が4億44百万円(前年同月比20%増)というキーパーラボとしての新記録を売り上げました。その中には初めて単月で月２千万円をキーパーラボ足立店が越し、一つの大きなステータスである１千万円の壁も直営62店舗中14店舗もが破る快挙も含まれています。

その結果、当第２四半期会計期間において売上高では22億7百万円(前年同期比7.1%増加)、営業利益は 4億91百万円(同10.8%増加)でありました。

これは当初立てた販売予算計画のペースに準じたものです。その結果、当第２四半期累計期間におきましては、第１四半期の不振を第２四半期の好調がカバーした形となって、売上高39億57百万円(前年同期比4.2%増加)、営業利益７億１百万円(同1.7%増加)、経常利益は７億10百万円（同3.1％増加）、四半期純利益は４億66百万円（同10.5％増加）となりました。

①　(キーパー製品等関連事業)

当事業における最も大きなシェアを占めている石油販売業界は、一般的に人不足の状況が進み、特にこの業界においては極端に人不足の状況にある会社と比較的潤沢に労働力を確保している会社と分れており、人不足が進んだ会社においては、たとえばキーパーコーティングのような油外収益の確保に力を割けない状況が出ています。

そんな影響からか、当事業に最も大きな影響力のあるキーパープロショップ店舗の総数は、当期間において増加が鈍っており(期首5,500店→現在5,645店)ます。

また、平成29年12月に行われた「冬のキーパー選手権」においては、100万ポイント(コーティング収益約150万円程度に匹敵)を越すような高得点の店舗が783店舗も出て目立って増えた反面、第２四半期累計期間におけるダイヤモンドキーパーケミカル、レジン2、爆白、爆ツヤなどのメイン商品の出荷本数が前年同期比0.12%増加とほぼ同数であり、増加傾向が鈍っています。この事業の売上高においても前年同期比3.3%減少であり、同様に増加傾向が鈍り、あるいは無くなっています。

この傾向に対して、人手をあまりかけることなく販売がやりやすい新製品「艶パック」の新発売を直近に予定しており、人手不足にあえぐ業界に対して有効策に成り得ると考えております。

また、一般消費者向けにキーパーコーティングの仕組みや理論を伝えるための新しいCG動画の制作を行い、１月末より、Web上での配信を始め、KeePerのブランディングとキーパープロショップの販売支援の強化も実施しております。

これらの結果、当セグメントの当第２四半期累計期間における売上高は23億91百万円（前年同期比3.3％減少）、セグメント利益は5億46百万円（同4.9％増加）となりました。ただし、内部取引による利益が85百万円含まれており、内部取引控除後の利益は4億61百万円（同5.3％増加）となります。

②　(キーパーラボ運営事業)

キーパーラボ運営事業においては、新店の開発が当面、一番の急務であると考えております。キーパーラボはストックビジネスの性質を持った店舗であり、新規オープンから採算に届くまでゆっくりとした成長が年単位であり、採算に届くまで平均期間を長く見て約３年とするならば、開発に長い時間要することは、後発競合に隙を与えることになるだけでなく、長期の拡大成長の力を失いかねないとして、この四半期においても新規開発に力を注いでき

ました。

その結果、

① 7月15日「キーパーラボ春日井店」愛知県の交通量の多い19号線沿いに

② 8月16日「キーパーラボ千葉ニュータウン店」客数の非常に多いカインズ店の中に

③ 8月26日「キーパーラボ久留米店」久留米インター出口の好立地に大型店

④ 10月12日「キーパーラボトレッサ横浜店」マーケットの濃い横浜のジェームスの中に

⑤ 11月8日「キーパーラボ広島長楽寺店」初の広島市内の好立地に

⑥ 11月25日「キーパーラボ松戸店」リニューアルオープン

⑦ 12月10日「キーパーラボ小牧山店」交通量の多い好立地に

第2四半期累計期間に6店舗の出店を実現しました。

しかし、当初計画した年間24店舗のペースには程遠く困惑する面もありますが、老朽化が進んだ店舗の改装にも注力することとしたため、改装店舗も含め新店24店舗の確保を目指しており、複数の新店舗の工事が微妙に春オープンのベースにずれ込んでいて、この3月から5月にかけて、新規オープンラッシュが始まります。

以下、予定、計画ですが、３月以降の店舗名は仮称となります。

⑧ 1月「キーパーラボ横浜綱島店」

⑨ 1月「キーパーラボ安城店」リプレイスかつ大型店としてオープン

⑩ 3月「キーパーラボ相模原淵野辺店」工事中　神奈川相模原店と補完関係

⑪ 3月「キーパーラボ江南店」申請中

⑫ 3月「キーパーラボ八王子店」リニューアル工事中

⑬ 3月「キーパーラボ可児店」初のカーマホームセンターの中に。申請中

⑭ 4月「キーパーラボ246玉川店」着工

⑮ 4月「キーパーラボ豊橋店」工事開始直前

⑯ 4月「キーパーラボ三郷中央店」工事中

⑰ 4月「キーパーラボ横浜南部店」プラン作成交渉中

⑱ 5月「キーパーラボ泉インター店」申請中

⑲ 5月「キーパーラボ唐木田店」申請中

⑳ 5月「キーパーラボ大阪東部店」交渉中

㉑ 5月「キーパーラボ大阪鶴見店」申請中

㉒ 6月「キーパーラボ蕨店」工事中

㉓ 6月「キーパーラボ葛飾店」現東京営業所

㉔ 6月「キーパーラボこどもの国店」現横浜営業所　土地所有済み

㉕ 6月「キーパーラボ守山店」申請中

今のペースがそのまま進めば、リニューアルオープンを含めて24店舗オープンに届く見込みです。しかも、今年の4月には62名の新卒新入社員がすでに承諾書受領済みで、中途採用社員も月に数名のペースで採用しつつあり、店舗拡大に伴う人員補充もちょうどいいペースで進む見込みです。

なお、キーパーラボ西熊本店は、平成30年１月より、当社とフランチャイズ契約を締結している株式会社アイビー石油に店舗運営を委託し、FC店として、運営を引き継いでおります。

人の採用には「スーパーGT」が一役買っていて、応募してくれた学生たちに「応募の動機は何?この会社を何で知った?」と聞くと、約半数の人が「スーパーGTで#37KeePer TOM'Sが活躍していたから。」と言ってくれます。
スーパーGTへのスポンサーが宣伝広告にだけでなく、リクルートにも大きな力を発揮していたのはラッキーです。

しかも、2017年シリーズは、#37KeePer TOM'Sが「シリーズチャンピオン」になって、色々なメディアが取り上げてくれるので大変良い宣伝になっています。

今期から始めている本格的なWeb広告は、実際に数字で証明されてくるのはこれからの事です。

今期から来期にかけて新店が非常に多くなるので、売上増加が先行して、セグメント利益はむしろ減少の傾向が続く可能性があります。

これらの結果、当セグメントの当第２四半期累計期間における売上高は15億65百万円（前年同期比18.3%増加）、セグメント利益は２億39百万円（同4.6%減少）となりました。ただし、内部取引による費用が85百万円含まれております。

（２）財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

（資産）

当第２四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ１億67百万円増加し、59億56百万円となりました。これは主として、売掛金が３億55百万円増加、新規出店等により有形固定資産が２億69百万円増加、現金及び預金が３億39百万円減少、商品が１億67百万円減少したこと等によるものです。

（負債）

当第２四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ１億67百万円減少し、17億３百万円となりました。これは主として、買掛金が１億16百万円減少、長期借入金が１億４百万円減少したこと等によるものです。

（純資産）

当第２四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ３億34百万円増加し、42億53百万円となりました。これは主として利益剰余金が四半期純利益により４億66百万円増加した一方で、配当により１億33百万円減少したこと等によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第２四半期累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前事業年度末に比べ３億39百万円減少し、11億29百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は前年同四半期に比べ61百万円減少し、３億65百万円となりました。収入の主な内訳は、税引前四半期純利益７億６百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加３億47百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ62百万円減少し、３億76百万円となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出３億16百万円、敷金及び保証金の差入による支出58百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は前年同四半期に比べ１億７百万円増加し、３億28百万円となりました。支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出１億95百万円、配当金の支払額１億33百万円であります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年６月期の業績予想につきましては、平成29年８月10日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成29年６月30日）	当第２四半期会計期間 （平成29年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,468,608	1,129,035
受取手形	163,880	156,030
売掛金	574,381	929,689
商品	505,188	338,019
貯蔵品	26,687	27,820
前払費用	99,369	76,037
繰延税金資産	36,372	24,421
その他	7,900	45,564
貸倒引当金	△520	△675
流動資産合計	2,881,868	2,725,944
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,472,507	1,700,407
構築物（純額）	103,836	118,311
機械及び装置（純額）	74,774	79,782
車両運搬具（純額）	24,670	24,073
工具、器具及び備品（純額）	96,889	99,440
土地	459,729	459,729
建設仮勘定	31,091	50,866
有形固定資産合計	2,263,500	2,532,610
無形固定資産		
のれん	650	－
ソフトウエア	41,990	46,957
その他	26,246	23,070
無形固定資産合計	68,887	70,028
投資その他の資産		
投資有価証券	16,360	18,060
長期前払費用	36,750	33,890
敷金及び保証金	227,423	284,012
建設協力金	158,545	153,242
保険積立金	13,499	13,499
繰延税金資産	122,790	125,470
その他	20	20
投資その他の資産合計	575,389	628,195
固定資産合計	2,907,777	3,230,834
資産合計	5,789,645	5,956,779

（単位：千円）

	前事業年度 （平成29年６月30日）	当第２四半期会計期間 （平成29年12月31日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	200,036	83,226
1年内返済予定の長期借入金	381,277	291,003
未払金	157,051	232,582
未払法人税等	218,023	259,259
未払費用	142,635	128,278
賞与引当金	19,432	22,310
その他	51,771	69,996
流動負債合計	1,170,226	1,086,656
固定負債		
長期借入金	229,585	124,837
退職給付引当金	164,424	181,600
役員退職慰労引当金	227,967	218,985
資産除去債務	74,933	87,614
その他	4,043	4,043
固定負債合計	700,953	617,080
負債合計	1,871,180	1,703,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,345,163	1,345,867
資本剰余金	1,007,224	1,007,224
利益剰余金	1,565,121	1,897,810
自己株式	△61	△61
株主資本合計	3,917,447	4,250,840
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,017	2,201
評価・換算差額等合計	1,017	2,201
純資産合計	3,918,465	4,253,042
負債純資産合計	5,789,645	5,956,779

（２）四半期損益計算書

第２四半期累計期間

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自 平成28年７月１日 至 平成28年12月31日）	当第２四半期累計期間 （自 平成29年７月１日 至 平成29年12月31日）
売上高	3,797,309	3,957,363
売上原価	1,114,249	1,087,034
売上総利益	2,683,059	2,870,329
販売費及び一般管理費	1,993,559	2,169,279
営業利益	689,500	701,050
営業外収益		
受取利息	278	422
受取配当金	180	180
為替差益	－	681
受取手数料	2,050	6,509
受取保険金	－	2,951
その他	555	260
営業外収益合計	3,064	11,004
営業外費用		
支払利息	2,988	1,968
為替差損	824	－
その他	164	－
営業外費用合計	3,977	1,968
経常利益	688,586	710,085
特別利益		
固定資産売却益	1,336	89
特別利益合計	1,336	89
特別損失		
固定資産除売却損	20,845	3,264
退職給付費用	12,783	－
減損損失	16,248	－
店舗閉鎖損失	5,295	－
特別損失合計	55,173	3,264
税引前四半期純利益	634,749	706,911
法人税、住民税及び事業税	226,045	231,651
法人税等調整額	△13,364	8,754
法人税等合計	212,681	240,405
四半期純利益	422,068	466,505

（３）四半期キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第２四半期累計期間 （自 平成28年７月１日 至 平成28年12月31日）	当第２四半期累計期間 （自 平成29年７月１日 至 平成29年12月31日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	634,749	706,911
減価償却費	79,102	94,106
減損損失	16,248	－
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△68	154
退職給付引当金の増減額（△は減少）	24,094	17,175
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	7,326	△8,982
受取利息及び受取配当金	△458	△602
為替差損益（△は益）	△185	△29
支払利息	2,988	1,968
固定資産売却損益（△は益）	19,508	3,174
店舗閉鎖損失	5,295	－
売上債権の増減額（△は増加）	△338,924	△347,458
たな卸資産の増減額（△は増加）	△13,364	166,035
仕入債務の増減額（△は減少）	△33,350	△116,809
前払費用の増減額（△は増加）	60,934	23,331
未払金の増減額（△は減少）	105,776	46,131
未払費用の増減額（△は減少）	21,883	△14,356
その他	20,557	△16,539
小計	612,114	554,211
利息及び配当金の受取額	458	602
利息の支払額	△2,988	△1,968
法人税等の支払額	△182,622	△187,536
営業活動によるキャッシュ・フロー	426,961	365,309
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△312,600	△316,313
有形固定資産の売却による収入	7,357	89
無形固定資産の取得による支出	△26,322	△9,850
貸付金の回収による収入	115	1,100
敷金及び保証金の差入による支出	△64,066	△58,132
敷金及び保証金の回収による収入	635	1,543
建設協力金の支払による支出	△30,000	－
その他	△14,579	4,785
投資活動によるキャッシュ・フロー	△439,459	△376,777
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	378,000	－
長期借入金の返済による支出	△154,734	△195,022
ストックオプションの行使による収入	139	704
自己株式の取得による支出	△378,419	－
配当金の支払額	△65,788	△133,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	△220,802	△328,134
現金及び現金同等物に係る換算差額	185	29
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△233,115	△339,573
現金及び現金同等物の期首残高	1,695,654	1,468,608
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,462,539	1,129,035

（４）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

前第２四半期累計期間（自　平成28年７月１日　至　平成28年12月31日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,473,707	1,323,602	3,797,309
セグメント間の内部売上高又は振替高	133,191	－	133,191
計	2,606,898	1,323,602	3,930,500
セグメント利益	521,135	251,046	772,181

２　報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	772,181
セグメント間取引消去	△82,681
四半期損益計算書の営業利益	689,500

（注）セグメント間の内部売上高133,191千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益521,135千円には、セグメント間の内部売上高による利益82,681千円を含んでおります。

３　報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「キーパーLABO運営事業」セグメントにおいて、店舗資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第２四半期累計期間においては16,248千円であります。

当第２四半期累計期間（自　平成29年７月１日　至　平成29年12月31日）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,391,864	1,565,498	3,957,363
セグメント間の内部売上高又は振替高	144,225	－	144,225
計	2,536,090	1,565,498	4,101,589
セグメント利益	546,837	239,534	786,372

２　報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	786,372
セグメント間取引消去	△85,322
四半期損益計算書の営業利益	701,050

（注）セグメント間の内部売上高144,225千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益546,837千円には、セグメント間の内部売上高による利益85,322千円を含んでおります。